



昭和肥料ニュース

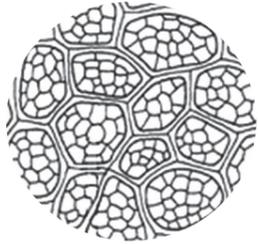
加里の補給が大切な年です!!

今年も高温障害、日照不足、長雨…

生育後半にむけてのケイ酸と

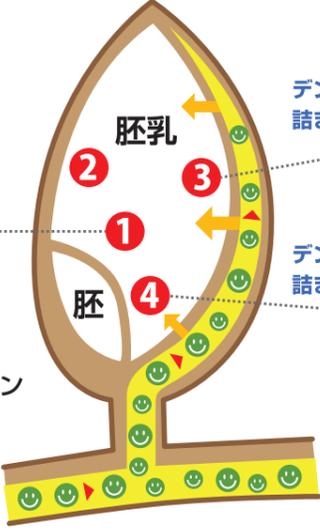
未熟米の種類と発生要因

デンプンは①～④の順に詰まっていきます



完全に登熟した細胞はデンプンの粒がぎっしり詰まっている

光合成で作られた炭水化物がデンプンの粒になります



乳白粒

デンプンが詰まらないと…

背白粒

デンプンが詰まらないと…

基白粒

高温や日照不足でデンプンが詰まりきらなかった細胞には空気の間隙ができ、光が乱反射して白く見える



白い部分が全体に及ぶ。(表面はつやがあり) 全体的にデンプン不足。

白未熟粒の分類

完全粒

乳白粒

背白粒

基白粒

近年問題になっている乳白米は、高温障害だけが原因ではありません。低温や日照不足でも起こります。発生部位を調べる事で、発生時期や要因を分類すると対策しやすくなり、一等米に近づける近道になります。

乳白粒 一時的低温、冠水、倒伏、高温障害 **背白粒** 登熟後期のでんぷん集積障害、高温障害

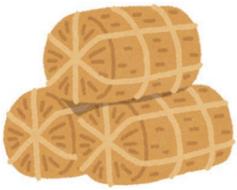
基白粒 登熟末期のでんぷん集積障害、高温障害、秋落ち、倒伏

プロ水稲農家はお天気任せは脱却しています ～決め手は追肥の**ケイ酸とカリ**です～

実は追肥次第で収量や品質が変動するといっても過言ではありません。販売店から適切な指導やアドバイスを受け、今や吸収力アップするケイ酸と加里に注視意識して施用を心がけましょう!!

追肥の必要性その1 幼穂形成期までにケイ酸を中心にすわせるかが勝負!

目標



10a 当たり一等米玄米
540kg 生産したい!!

必須



良質米に本来必要な
ケイ酸含有量 120kg

不足



今は残念ながら
稲わら 土壌 灌がい水
3つ足しても 60～80kg



追肥の必要性
その2

カリは寒暖の差が激しい年ほど、根張りに貢献! また、低温時はデンプンやタンパク質の合成や蓄積にも影響!

加里の効果

- ・不稔実米を減少させる
- ・粒張りを良くする
- ・根の活力を高める
- ・葉をピンと立たせ、光環境を良くし光合成を促進させる
- ・ケイ化細胞を強化し莖葉を硬化させ、倒伏・病害に強い稲を作る



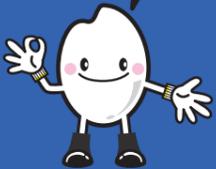
幼穂形成時期(出穂の40～50日前)はイネにとって重要な準備期間です。追肥としては窒素施用の意識はありますが、ケイ酸やカリの施用+微量要素αで、窒素のこなしに大きく貢献します。

POINT

追肥でまだ間に合う! 土壌改良材

水稲は、定植後～幼穂形成期までが、三要素+二次要素を必要とします。必要なケイ酸量120kgのうち受光体勢・倒伏軽減・ケイ化細胞強化の為…莖葉中に90kg、デンプン集積の為…籾殻中に30kgそれぞれ必要です! 冒頭の未熟米発生は、高温だけでなく低温時に窒素のみ入る事で、隙間だらけになるため起こります。

肥料についての詳細は、お気軽に販売店にお尋ね下さい♪



室井工場長編集後記

昭和肥料ニュースも、第2号を発刊する事ができました。前回の土づくりに続き、第2号では毎年変動する天候に柔軟に対応し、収量や品質を安定的向上していただく内容としました。日々の栽培管理の一助となれば幸いです。

